

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標……知・徳・体・情の調和のとれた教育内容を基調とし、豊かにして質実な校風の樹立に努める。                  中・長期目標……豊かな人間性と社会性を育む心の教育の充実                  (本年度の)                  ・生徒一人ひとりを大切にすキャリア教育の充実                  ・部活動の充実                  ・教育相談の充実                  ・新たな学校づくりの推進</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>①多くの生徒が授業をはじめ、朝学にも真剣に取り組んでおり、学習指導に対する生徒の満足度も高い。引き続き、少人数指導及び習熟度別指導、朝学、PS課外等の工夫・改善や県教委等の進学支援講座、学習セミナーへの参加促進により、学習習慣の定着とともに学習意欲の向上、学力向上を図るとともに、生徒の実情、ニーズに応じた「きめ細かい指導」を本校の特色として推進していく必要がある。                  ②校内外の挨拶運動や服装・頭髪指導など、きめ細かな働きかけにより、生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。一方で、多様な価値観をもつ生徒も増加しており、礼儀や規範意識の醸成に向けて、粘り強く指導していく必要がある。また、ネットに関わる生徒指導上の大きなトラブルはないが、スマートフォンや携帯電話の生徒の使用状況は大きく変化していることから、望ましい使用の在り方をはじめとする情報モラルについて、学校と家庭が連携を取りながら、継続的に指導をしていく必要がある。                  ③学校安全アンケートや面談等により、生徒の状況のきめ細かな把握に努めているが、スクールカウンセラーの活用など教育相談機能をさらに充実させるとともに、保護者及び関係機関との連携を密にとり、組織的な取組を通して問題の早期発見・早期対応に努める必要がある。                  ④進路に関する情報提供や外部講師の活用など様々な取組を通じて、早期の進路意識の高揚を図っている。引き続き、分掌・学年・教科が連携し、組織的な進路指導・進路対策を推進するとともに、「総合的な学習の時間」や各種ガイダンス等を通じて、キャリア教育をより一層充実させていく必要がある。                  ⑤多くの生徒が部活動に所属しており、活動を通して人間的に成長していることから、部活動のさらなる活性化を図る必要がある。                  ⑥地域の方の学校、生徒に対する期待は大きく、また、協力・支援したいという地域人材も多いことから、生徒のボランティア活動等への参加を促し、地域と連携した活動の充実にも努めるとともに、卒業生、保護者、地域の人々による出前授業、ガイダンスなど、地域の教育力を今後も幅広く積極的に活用していく必要がある。                  ⑦新高校の開校を来年度に控え、新高校が引き続き地域から愛され、入学を希望する中学生の増加を図るため、地域の住民や中学校との交流の機会を増やし、本校の良さを積極的に発信するとともに、様々な情報の共有化を図り、連携の強化及び充実にも努める必要がある。また、近隣の中学校以外の中学生及び保護者にも、本校の教育活動について積極的に情報発信を行い、本校の良さや長所を紹介していく必要がある。                  ⑧新高校の開校に向けた業務の増加が見込まれることから、既存の業務の効率化・簡素化等の推進による勤務負担軽減や職場環境の改善が必要である。                  ⑨施設設備について、老朽化が進んでおり、営繕及び安全点検に努めるとともに、予算が必要なものは優先順位を明確にして県へ強く要望する。</p>
---

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>(1) 豊かな人間性と社会性を育む心の教育の充実                  学校行事、部活動、ボランティア活動などを通して心の成長を図り、社会人としての資質を高めるとともに、挨拶や掃除など当たり前のことが当たり前にできる主体的な生徒の育成をめざす。                  (2) 生徒一人ひとりを大切にすキャリア教育の充実                  早期に自分の将来を見据えた高い目標を設定させ、自学自習の習慣化による学力の定着・伸長を図るとともに、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けたきめ細かい指導にあたる。                  (3) 部活動の充実                  部活動を通して、人間関係の構築を図るとともに、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力をもつ人間を育成するため、全教職員共通認識のもとに組織として指導にあたる。                  (4) 教育相談の充実                  生徒一人ひとりの心身の健康のため、家庭等との連携のもと、さまざまな機会をいかして、組織的な教育相談体制のさらなる充実を図る。                  (5) 新たな学校づくりの推進                  両校のよき伝統・校風を充実・継承しながら、時代や地域のニーズを踏まえた特色ある教育活動を展開し、地域の期待に応える存在感のある学校を創造する。</p> <p>チャレンジ目標: 高めよう人間力、広げよう北高fan～新たな学校づくりを通して～</p>
---

4 自己評価				5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
教務	地域連携の充実	PTA総会の充実 オープンスクールの充実	4.PTA総会や授業公開が盛んに行われ、十分に「開かれた」学校となった。 3.PTA総会や授業公開が例年より行われ、まずまずの「開かれた」学校となった。 2.PTA総会や授業公開が例年ほど行われず、「開かれた」学校とはあまり言えなかった。 1.PTA総会や授業公開がほとんど行われず、「開かれた」学校とはとても言えなかった。	3	○10月19・20日に開催したオープンスクールには、響高校教員や地域の方9名の参加があった。 ●PTA総会は52%の参加(昨年度51%)があった。講演会、学年会、クラス懇談会等の充実により、さらに出席者を増加させる工夫が求められる。	
	中高連携の充実	北高ガイダンスなどの中高連携行事の充実	4.中学校訪問や北高ガイダンスなどが盛んに行われ、中学校との連携がしっかりと取れた。 3.中学校訪問や北高ガイダンスなどが例年どおりに行われ、中学校との連携がまずまず取れた。 2.中学校訪問や北高ガイダンスなどが例年ほど行われず、中学校との連携が例年ほど取れなかった。 1.中学校訪問や北高ガイダンスなどがほとんど行われず、中学校との連携がほとんど取れなかった。	4	○2度の学校説明会(8月は151名、11月は52名の参加)を行い、新高校について、中学生や保護者・教員・地域の方に詳細に説明した。8月の学校説明会では、生徒に学校紹介を行わせるなどの新たな取組もおこなった。 ○豊北中3年生を対象として、体験授業(世界史と数学)と部活動紹介を通じた学校紹介を行った。 ○新高校通信(6回)、学校通信(ほぼ毎月)を発行するとともに、ホームページを通じて授業や学校行事等の紹介に努め、その更新回数を大幅に増やした。	
	職員室等の環境の整備	職員室内の文書の整理 消耗品等の管理 特別教室の整備	4.職員室等が十分に整理され、とても仕事をしやすい環境となった。 3.職員室等がほどよく整理され、まずまず仕事をしやすい環境となった。 2.職員室等があまり整理されず、あまり仕事をしやすい環境にはならなかった。 1.職員室等はほとんど整理されず、仕事をしやすい環境とはとても言えなかった。	4	○再編統合に向けて、響高校と内規の見直し、教育課程の検討を行った。情報交換を綿密に行い、新高校の教育活動に活かしていきたい。 ●放送機器等、耐久年度を超えた設備があるので改善に向けて要望したい。	
生徒(生徒指導)	基本的な生活習慣の確立	挨拶運動や服装・頭髪等の指導など、きめ細かく組織的な風紀・安全指導を通じた規範意識の確立	4.全教職員が協力した取組となり、十分な効果があった。 3.生徒指導課や一部の教員による指導が行われ、ある程度の効果があった。 2.不定期な取組に終わり、あまり効果がなかった。 1.ほとんど取組が行われず、生徒の規範意識が低下した。	3	○年間計画に基づき、校内外の挨拶運動や年5回の服装・頭髪等の指導を行い、一定の評価は得られた。また、来年度より、前髪の長さの指導基準を変更することとした。 ●その一方で、多様な価値観を持つ生徒が増加しており、挨拶や規範遵守に対する意識の薄れが進んでいる。今後、全教職員が生徒一人ひとりと向き合うことはもちろんのこと、家庭や中学校とも連携した、粘り強い指導が必要である。	
	教育相談体制の充実	個人面談や教育相談委員会の充実による生徒一人ひとりの状況の把握と共有及び早期発見・対応	4.面談や情報共有が十分に行われ、生徒理解・指導に役立った。 3.一応の取組ができ、ある程度成果があった。 2.面談はあまり実施できず、状況把握が不十分であった。 1.面談が全く実施できなかった。	4	○毎月開催する教育相談委員会を中心に、HR担任による個人面談と学校安全アンケートを毎学期、保護者面談を年2回、昼休みの校内巡視を毎週3回実施し、生徒に関する情報の収集と共有を図った。 ○これに加え、欠席・欠課の多い生徒に対する個別の対応やSCの活用等を通じて、生徒理解や問題行動予防に成果があった。	
	自律心と協調性を基盤とした生徒の主体的な活動の推進	文化祭や生徒総会、体育祭等の学校行事における、生徒会を核とした生徒の主体的な活動の充実	4.生徒会中心に生徒の主体的活動が十分行われ、成果があった。 3.生徒会の主体的活動は少なかつたが、行事は活発に行われ、教育的効果があった。 2.教育的効果はあったが、教員主導に終わり、生徒の活気は不十分であった。 1.生徒の協力体制が整わず、教育的効果は上がらなかった。	4	○生徒会執行部を中心とした文化祭・生徒総会、新たに実施した地域創生講演会等の学校行事や、中学生対象の学校説明会等の校外行事を、自発的に企画・運営した。 ●生徒数減少に伴い、生徒一人あたりの分担が増えているので、昨年度に引き続き活動内容の整理・精選を進める必要がある。	
					<p>学校関係者からの意見・要望等</p> <p>・新入生の確保に向けて、地元の中学生在が、下関北高校に目を向けてくれるような取組をさらに推進していくべきである。                  ・来年度から、豊北・下関北高校に導入されるコミュニティスクールの取組に期待している。</p> <p>・豊北町の不審者情報が学校に寄せられることはあるのか。                  →不審者情報の大半が、下関市内から寄せられるものである。</p>	<p>評価</p> <p>A</p> <p>A</p>

生徒 保体 (生徒指導)	安全指導や教育相談に係る教員の実践力向上	学期毎の各種研修と関係機関との情報交換	4: 研修や情報交換が十分行われ、多くの教員の実践力の向上につながった。 3: 研修や情報交換が計画通りに行われ、一部教員の実践力がやや向上した。 2: 一部の実施にとどまり、教員の実践力の向上にはつながらなかった。 1: 研修や情報交換は実施されなかった。	3	○年間計画に基づき、教育相談・情報モラル・薬物乱用防止・交通安全・防犯等の研修や防災避難訓練を実施した。 ○研修内容や講師の選定がマンネリ化しないよう工夫を図った。今後、講義形式の研修を極力少なくし、実習形式や生徒が主体となる研修を増やしていきたい。 ○1学年生徒を対象とした「仲間づくり」の演習を、4月にはAFPYを、1月にはスクールカウンセラーの指導の下で実施した。	
	家庭・地域社会と連携した学校内外の安全確保と情報発信	学校安全アンケート(年3回)、携帯電話・スマートフォン調査(年2回)の実施、関係機関と連携した学校内外巡視、家庭・地域社会への情報発信	4: 家庭・地域社会との連携や情報発信が十分行われ、大きな成果が得られた。 3: 家庭・地域社会との連携や情報発信が行われ、ある程度の成果があった。 2: 不定期な活動に終わり、家庭・地域社会との連携や情報発信は不十分であった。 1: 家庭・地域社会との連携や情報発信が全く行われなかった。	4	○各種連絡協議会へ参加するとともに、不審者情報については普段から些細なことでも地元小・中・高と緊密に情報交換し、連携を深めた。校外巡視を、登校時はほぼ毎日、下校時は適宜実施した。 ○毎学期の学校安全アンケートにより、人間関係の把握と早期対応、学校内外の危険箇所の早期発見と対応に努めることができた。校内環境整備については、事務室の機動的な対応により、大幅に改善された。 ●携帯電話・スマートフォンの生徒の使用状況は劇的に変化しつつあることから、今年度も、生徒・保護者対象に実態調査を2回実施し、HR担任による面談等に活用した。今後も継続して、生徒・保護者・教職員で携帯電話・スマートフォンの適切な使用のあり方を検討する必要性がある。	
生徒 保体 (保健体育)	生徒の健康状態の把握と健康に関する自主管理能力の育成	健康観察の実施 保健だよりの発行による自己の健康管理と公衆衛生に対する意識の向上	4: 月に1回発行し、意識の向上が十分に図られた。 3: ほぼ月に1回発行し、意識の向上がある程度図られた。 2: 不定期な発行に終わり、意識の向上はあまり図られなかった。 1: 保健だよりの発行が全くできなかった。	4	○「保健だより」を通じた健康管理意識の啓発により、マスクの利用、咳をする際のエチケット、教室内の換気等各種感染症への自己防衛策に積極的に取り組む生徒がみられた。 ○インフルエンザ流行時には、注意喚起を促し、予防の意識を高めることができた。また、アルコール消毒液を各クラスに設置した。	・掃除について、「自ら進んで掃除をする生徒が減ってきているように感じる」という意見が述べられているが、掃除の状況はどうか。 →掃除の時間、生徒はしっかり掃除を行っている。しかし、以前は、掃除時間外、たとえば早朝等にも、自ら進んで掃除に取り組む生徒がいた。現在はそのような生徒が見られなくなった。
	環境教育の充実	各行事の後片付け指導等を通してゴミの分別収集の徹底とゴミ減量化への意識の向上	4: 十分な取組ができ、大きな成果が得られた。 3: 一応の取組ができ、ある程度の成果が得られた。 2: 一応の取組をしたが、あまり成果が得られなかった。 1: 十分な取組ができなかった。	3	○行事後のゴミの分別については、スムーズに実施できた。 ●自ら進んで掃除をする生徒が減ってきたように感じる。環境美化について、さらに生徒の意識を高められるよう、全教員で指導していく必要がある。	
	安全に配慮したスポーツ活動の実践	AED講習会の実施による応急処置に対する意識の向上 教職員対象の校内研修会の実施	4: 充実した講習会が実施され、十分な意識の向上が図られた。 3: 講習会を実施し、意識の向上が図られた。 2: 講習会を実施したが、意識の向上は図られなかった。 1: 講習会を実施できなかった。	4	○教員・全校生徒を対象に、豊浦西消防署と連携し、AED講習会を実施(3月14日実施予定)した。心肺蘇生法について知識を高め、実践力を身に付けることができた。	
進路 指導	自学自習の習慣化による学力の定着・伸長	朝学の実施 進路希望調査の結果をふまえた個人面談の実施 模試データの分析・活用	4: 十分な実践をすることができ、大きな成果が得られた。 3: 一応の実践をすることができ、ある程度の成果が得られた。 2: 一応の実践をしたが、あまり成果が得られなかった。 1: 十分な実践ができなかった。	4	○朝学の実施・強化(漢字<全学年統一クラスマッチ形式>、英単語、数学、新聞コラム書写その他時事問題等)全学年で意欲的に取り組んだ。 ○「進路面談」実施 進路課長による。2年生は年2回、1年生は年1回実施。早期の進路目標設定への一助とした。 ○模試予告 ポスターを昇降口ホワイトボードに掲示し、意識啓発に努めた。データについては、成績推移や弱点のチェックを継続していきたい。	・PTA総会時に、3年生の保護者に進路指導課から進路説明があるが、1・2年生の保護者にも同レベルの詳細な説明があってもよい。 ・進路情報は保護者が知らないことも多いので、仮入学・入学式・保護者懇談会など保護者が集まるあらゆる機会に、1年生の早い段階から実施してもらいたい。
	3年間を見通した進路指導体制の充実	早期の高い目標設定の指導 年次進行による系統的な進路指導体制の充実 進路指導に関する生徒、保護者への積極的な情報提供	4: 十分な実践をすることができ、大きな成果が得られた。 3: 一応の実践をすることができ、ある程度の成果が得られた。 2: 一応の実践をしたが、あまり成果が得られなかった。 1: 十分な実践ができなかった。	4	○「進路だより」発行 1月15日現在で11号まで発行。記事の執筆者は課長のみならず、各課員も担当している。多くの視点から進路に関する記事を構成することが可能となっている。 ○学校説明会・入試説明会への参加 進路指導課・3学年担任で可能な限り参加し、最新情報の収集に努め、生徒に還元してきた。	
	最新の進路情報の共有	最新の進路情報を入力・分析し、「進路だより」での情報発信及び必要に応じて進路情報交換会の実施	4: 毎月1回発行することができ十分な成果が得られた。 3: 発行することができた程度の成果が得られた。 2: 発行することはできたが、あまり成果が得られなかった。 1: 発行することができなかった。	4	○3学年「学年終礼」への出席 進路課より3年生に直接メッセージを送った。内容は、「受験後に考えるべきこと」「センター試験に向けて」等 ○3学年との連携 連携強化を意識して取り組むことができた。進路実現に向けてさらに一致協力体制をとりたい。	
	キャリア教育の推進	有効な体験的進路学習(学校見学、進路講演会、面接指導ガイダンス、小論文ガイダンス、職業別ガイダンス等)の実施による進路意識の高揚	4: 十分に実施することができ、大きな成果が得られた。 3: 実施することによりある程度の成果が得られた。 2: 実施したがあまり成果が得られなかった。 1: 十分な内容を実施することができなかった。	4	○「ガイダンス」行事の実施 「職業理解ガイダンス」、「上級学校ガイダンス」を各1回実施。事前・事後の指導も徹底し、生徒の意識啓発に役立てた。 ○「予備校自習体験」実施 6月・9月の2回実施。 行事後の受験生の動機付けに有効であった。	
	学習指導の改善・充実	学習指導要領の改訂や高大接続システム改革を見据え、学力の向上と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善(授業評価の活用、研究授業及び研究協議、校内研修会の実施)	4: 学習指導に対する満足度(生徒)が80%以上であった。 3: 学習指導に対する満足度(生徒)が70%以上であった。 2: 学習指導に対する満足度(生徒)が60%以上であった。 1: 学習指導に対する満足度(生徒)が60%未満であった。	4	○学校評価における学習指導に対する生徒の満足度は96%であった。 ○すべての教科で、研究授業を行い、事後は研究協議を行い授業改善につなげた。 ○年2回授業評価を実施し、事後は各教科で授業改善について検討した。 ○高大接続改革の実施方針等及び大学入学共通テストについて県教委職員による研修を行い、教員の理解を深めることができた。	
学校 経営	地域貢献活動やボランティア活動の充実	生徒への積極的な情報提供 全校体制での取組のほか、家庭クラブ、部活動など、様々な単位での活動を拡充 ボランティアバンクへの登録の促進	4: 情報提供を十分行い、ボランティア活動等への生徒の参加数が昨年より増加した。 3: 情報提供を十分行い、ボランティア活動等への生徒の参加数が昨年と同じくらいであった。 2: 情報提供を十分行ったが、ボランティア活動等への生徒の参加数が昨年より減少した。 1: 関係機関と情報交換を行うことができなかった。	4	○年間通じて、多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加した。様々な活動を通じて、充実感と達成感が醸成され、豊かな心とたくましい行動力を身に付けさせることができた。また、地域の方々や施設との連携も深まった。 ○ボランティアバンクへの登録を1年生に呼びかけ、今年度生徒全員51名が登録し、積極的なボランティア活動を行った。	
	部活動の充実	人間関係力の構築、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力の育成などの本校教育における「部活動のわらい」に基づく活動運営 全教員の共通理解に基づいた指導効果の向上	4: すべての部活動において、「わらい」に基づいた適切な運営ができ、指導の効果があがった。 3: 多くの部活動において、「わらい」に基づいた適切な運営ができ、指導の効果があがった。 2: 多くの部活動において、「わらい」に基づいた適切な運営に心がけられたが、指導の効果は十分でなかった。 1: 「わらい」に基づいた適切な部活動運営ができなかった。	3	○全教員が部活動の活性化に鋭意取り組んだ。技術面や体力面とともに、心・技・体のバランスのとれた指導に努め、生徒は人間的に大きく成長した。 ●部活動と学業の両立が難しい生徒もいた。	

A

A

A

学校経営	新たな学校づくりの推進	<p>4:新高校で実施する特色ある教育活動を先行して実施し、その魅力を地域に発信することができた。</p> <p>3:新高校で実施する特色ある教育活動を先行して実施することができた。</p> <p>2:新高校で実施する特色ある教育活動を立案することができた。</p> <p>1:規定の整備など、新高校の開校に必要な学校運営体制が整った。</p>	4	<p>○国語や地歴公民、家庭などの授業で、地域の有識者を招いて出前授業を実施したり、体育の授業では、教師と生徒が地元の小学校に出向き、児童を指導するとともに交流を深めた。</p> <p>○学校行事や各種ガイダンスに、卒業生や地域の方を招いて指導を仰いだ。</p> <p>○郷土に対する理解を深め、故郷に対する愛着と誇りを養うため、若手経営者との交流会や地域創生講演会を開催した。また地域探訪や地域を活性化するワークショップ等に参加させ、地域課題を発見しその解決について考察させた。</p>	
	学校情報の積極的な発信と情報セキュリティの強化	<p>4:学校情報を提供する機会が昨年度より大幅に増加した。</p> <p>3:学校情報を提供する機会が昨年度より増加した。</p> <p>2:昨年度と同じ程度には、学校情報を提供することができた。</p> <p>1:学校情報を提供する機会が昨年度より減少した。</p>	4	<p>○学校と保護者・地域との連携を深めることを目的として、迅速かつ的確に多くの学校情報を提供した(1月15日現在で、学校通信「ワン・フォー・オール」7号、ホームページ9回、マスコミ報道37回)。</p> <p>○職員会議や職前等で、コンピュータウィルスの感染の危険性を指摘するとともにアップデートを推奨し、教職員の情報管理意識を向上させた。</p> <p>●情報通信機器の進歩に、教職員の情報管理意識が追いついていない。</p>	
	安心・安全な学校づくり	<p>4:安全・健康指導に対する満足度(生徒・保護者)が90%以上であった。</p> <p>3:安全・健康指導に対する満足度(生徒・保護者)が80%以上であった。</p> <p>2:安全・健康指導に対する満足度(生徒・保護者)が70%以上であった。</p> <p>1:安全・健康指導に対する満足度(生徒・保護者)が70%未満であった。</p>	4	<p>○暴風雨等の警報発令時等に、生徒、保護者への緊急情報発信(緊急メール、ホームページ)を迅速に行った。</p> <p>○関係機関とも連携し、防災教育、避難訓練を予定通り実施した。</p> <p>○学校施設の整備、点検を定期的に行い、破損や修理が必要な箇所については、迅速かつ確実に修理保全を行った。</p> <p>●不審者に関する情報が増えており、保護者や警察との連携協力をさらに密にしていく。</p>	
学校事務	学校運営の活性化	<p>4:連携を強化し学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。</p> <p>3:連携を強化し効率的な予算執行を行うことができた。</p> <p>2:連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。</p> <p>1:連携の強化があまりできなかった。</p>	3	<p>○教員に対して予算についての説明を行い、執行状況も職員会議で逐一報告を行った。</p> <p>○県予算の削減があったため、教員との連携を強化し節減に努めた結果、効率的な予算執行ができた。</p>	A
	接遇の向上	<p>4:来客等の接遇が大幅に向上した</p> <p>3:来客等の接遇が向上した</p> <p>2:来客等の接遇があまり向上しなかった。</p> <p>1:来客等の接遇が全く向上しなかった。</p>	3	<p>○来客者等を「お待たせしない」と言うコンセプトで接遇に取り組み、教職員の勤務動静や学校行事など事務室内で共有した。</p> <p>●職員朝礼での伝達がない行事等についての把握ができていない場面があったため、対応が遅れることがあった。</p>	
業務改善	業務の効率化の推進	<p>4:ほぼすべての教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えた感じている。</p> <p>3:ある程度の教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えた感じている。</p> <p>2:ある程度の教員が業務時間(授業やその準備に係る時間を除く)が増え、忙しくなったと感じている。</p> <p>1:多くの教員が業務時間(授業やその準備に係る時間を除く)が増え、忙しくなったと感じている。</p>	2	<p>○新高校の開校に向けた事務が増加するなかで、各分掌で、業務改善に取り組み、来年度の学校運営について検討した。</p> <p>●業務内容の見直しと簡素化について、今後も継続して取り組む必要がある。</p>	B
	教職員の心身の健康の維持	<p>4:教員の時間外業務が前年度の10%以上減少し、大きな成果が得られた。</p> <p>3:教員の時間外業務が前年度より減少し、ある程度の成果が得られた。</p> <p>2:教員の時間外業務は前年度と同程度であった。</p> <p>1:教員の時間外業務は前年度よりも増加した。</p>	2	<p>○試験週間、長期休業中等休暇が取りやすい時に、年休や代休を取得してもらっている。</p> <p>○部活動休業日の徹底などにより、1週間に1日以上以上の休養を取ることを促している。</p> <p>●小規模校のメリットを生かしたきめ細かい学習・生活指導、部活動や学校行事に意欲的に取り組む中で、業務多忙な状況が続いている。今後も時間外業務の削減に向けて鋭意取り組んでいく。</p>	

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【教務】	<p>・少人数指導、習熟度別授業については授業評価アンケート、学校評価アンケートより多くの賛成意見を得ている。基礎学力の定着とともに、理解できる授業を目指していきたい。</p> <p>・各教科で研究授業を行い、生徒の実情やニーズに応じたきめ細やかな指導ができるように研修を行い、指導力の向上に努めたい。</p> <p>・学校説明会、オープンスクール、ホームページ、PTA新聞等で本校の取組を紹介した。中学生だけでなく、地域への情報の発信を行い、信頼される学校を目指したい。</p> <p>・下関北高校の新しい教育課程に設置される「地域探究」について、その指導方法・内容等について具体的に検討していくことが課題である。</p>
【生徒保健】	<p>・校内外における礼儀や規範意識について、今後も指導に力を入れていく。しかし、定員割れや地域の少子化の影響に伴い、学力や通学範囲の広がりが見られ、様々な価値観を持つ生徒が増加する傾向がある。今後は、学年団を核に生徒保健課と教育相談委員会が強力にサポートする体制を充実させ、全教員による、機動的な対応を心がけたい。そのため、教育相談機能の充実、家庭・地域・生徒指導諸機関だけでなく、小・中学校との連携を一層深め、生徒一人ひとりに対するきめ細かい指導を行っていきたい。</p> <p>・人間関係や安全上の諸問題の予防と対応のため、保護者会、学校安全アンケート、携帯・スマートフォン調査等を通じて、地域・家庭との双方向的な情報交換に力を入れた。</p> <p>・毎月、保健だよりを発行した。また、マスク、アルコール消毒液、おう吐物処理セットを各教室に設置することにより、自主的に健康管理をすることができた。インフルエンザ罹患率も低いものとなった。</p> <p>・ごみの分別収集については、概ね実施できた。生徒が自ら進んで清掃活動に取り組めるよう、指導していきたい。</p> <p>・生徒、教職員でAED講習会を実施することにより、学校全体で心肺蘇生について意識を高めることができた。</p>
【進路指導】	<p>・成果 ①進路面談…1月15日現在で11号まで発行。生徒の意識啓発に役立てた。 ②個別指導(教科、小論文)…主に推薦入試で推進できた。 ③3学年との連携…毎朝、学年主任と密に連携をとりスムーズな情報交換ができた。</p> <p>・課題 ①教科指導…センター試験などの学力試験に対応できる特別な指導が必要と痛感。該当者に特化した進学課外しか方法はないと考えられる。 ②志望動機指導…今年度は手間取った。2年生3学期および3年生1学期の指導の強化が求められる。</p>
【学校経営】	<p>・下関北高校の開校を見据え、25項目の重点目標を定め、具体的な方策を立て、学校改善に取り組んだ。その結果、概ね目標を達成することができた。</p> <p>・生徒、保護者への緊急情報発信、防災教育や避難訓練などの安全教育を推進し、安心・安全な学校づくりに努めた。今後とも、保護者、関係機関との連携を密にし、学校安全のさらなる充実を図りたい。</p> <p>・「地域とともにある学校」を目指し、学校行事や部活動・ボランティア活動、また地域連携の取組などを通じて、学校と地域の連携強化に努めた。また、質・量ともに充実した学校情報の発信に努めた。今後も、あらゆる教育活動を通じて、地域に愛され、地域から信頼される学校づくりに励む。</p>
【学校事務】	<p>・県下一律の予算削減があったため、学校目標達成のための予算執行が十分に行えなかったが、教員に対して予算についての説明を行い、節減については学校一丸となって取り組むことができた。今後は、下関北高校の開校に向けた取り組みを充実しなければならぬ。</p> <p>・来客者等を「お待たせしない」と言うコンセプトで接遇に取り組み、教職員の勤務動静や学校行事など事務室内で共有することができたが、教員側からの情報がなく、対応が遅れることもあった。今後は日々の行事等を教員室と情報共有が図れるようしなければならない。</p>
【業務改善】	<p>・各分掌で、業務改善に努めた。業務の見直しや簡素化については、今後も継続して取り組む。</p> <p>・時間外業務の削減や年休や代休等の取得を促進し、教職員が心身ともに健康で働きやすい職場環境づくりに努める。</p>

6 次年度への改善策

- ①地域の中学校や住民との交流の機会を増やし、豊北・下関北高校の良さを積極的に発信するとともに、様々な情報の共有化を図り、連携の強化及び充実に努める。また、近隣の中学校以外の中学生及び保護者にも、豊北・下関北高校の教育活動について積極的に情報発信を行い、学校の良さや長所を紹介していく。
- ②少人数指導及び習熟度別指導、朝学、課外等の工夫・改善、県教委等の進学支援講座や学習セミナーへの参加促進により、学習習慣の定着とともに学習意欲の向上、学力向上を図る。また、生徒の実情、ニーズに応じた「きめ細かい指導」を学校の特色として今後も実践していく。
- ③スマートフォンや携帯電話の望ましい使用の在り方をはじめとする情報モラルについて、学校と家庭が連携を取りながら、継続的に指導をしていく。また、礼儀や規範意識の醸成に向けて、粘り強く指導を行う。
- ④スクールカウンセラーの活用など教育相談機能をさらに充実させるとともに、保護者及び関係機関との連携を密にとり、組織的な取組を通して問題の早期発見・早期対応に努める。
- ⑤進路に関する情報提供や外部講師の活用など様々な取組を通じて、早期の進路意識の高揚を図る。
- ⑥分掌・学年が連携し、組織的な進路指導・進路対策を推進する。
- ⑦「総合的な学習の時間」や各種ガイダンス等の指導を通じて、キャリア教育の一層の充実を目指す。
- ⑧進学課外や公務員対策、個別対応などの充実を図り、生徒の希望進路の実現に努める。
- ⑨ボランティア活動について、さらなる生徒の参加促進を図り、地域と連携した取組の充実に努める。
- ⑩卒業生、保護者、地域の人々に出前授業やガイダンス等の講師をお願いするなど地域の教育力を今後も幅広く積極的に活用する。
- ⑪地域と連携し、地域課題を発見し、その解決を協働して考察するなどコミュニティ・スクールの取組を推進する。
- ⑫部活動のさらなる活性化を図るとともに、部活動を通じた人間性の向上に努める。
- ⑬職員室と事務室の情報・行動連携を強化し、学校教育目標の実現を図る。
- ⑭施設設備について、営繕及び安全点検に努めるとともに、予算が必要なものは優先順位を明確にして県へ強く要望する。
- ⑮業務の簡素化に積極的かつ具体的に取り組み、教職員の負担軽減や職場環境の改善に取り組む。